



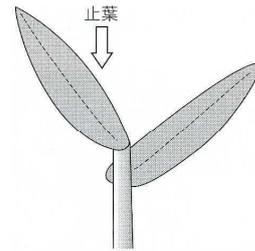
秋まき小麦 止葉期の追肥について

5/15現在の定期作況において、秋まき小麦の生育は、茎数が866本/m²となっており（平年：1,215本/m²）やや少なく推移しています。ただし、草丈は41.9cm（平年：33.3cm）と高くなっています。生育は+7日となっており、止葉期は早まる予定です（平年：5/27）。

止葉期頃の追肥は、粗原収量の確保と子実の充実、タンパクの向上につながります。特に「きたほなみ」は生育後半の追肥が効果的です。ほ場の茎数・葉色等を確認し、適期に追肥を行いましょう。

幼穂形成期の追肥を遅らせたほ場では、出穂期までに追肥しましょう。

ジシアン（D d）、サミットコートなどの肥効調節型肥料で追肥を行っている場合も、ほ場の茎数・葉色等を確認し、止葉期頃の追肥を検討して下さい。



☆まずは止葉期を確認！

止葉期：止葉が完全に展開した茎が、
全茎の40～50%になった日

☆本年のきたほなみの窒素施肥体系例

止葉期の上位茎数 (m ² あたり本数)	700本以下
施肥窒素量	4 kg/10a

★硫安1袋(20kg) = 窒素約4kg

★上位茎数 = 最上位展開葉の葉耳高が10cm以上の茎

茎数が特に多いほ場は、葉色と草丈を考慮して追肥量を加減して下さい。判断が難しい場合は、普及センター、JAへ相談して下さい。

☆倒伏軽減

薬剤使用例

迷ったら散布しましょう！

薬剤名	系統名	使用量 (/10a)	使用時期	使用回数
カルタイム フロアブル	プロヘキサジオン	150ml	止葉期～出穂始期	1回
エスレル10	エテホン	300～500倍 (333～200ml)	止葉期～出穂始期	1回

○●心に余裕をもって農作業を行いましょう！！●○